

鈴木隆介著「建設技術者のための地形図読図入門
第4巻 火山・変動地形と応用読図」

守屋 以智雄*

Book Review: Primary Text on Topographic-map Interpretation for Civil Engineers
Vol. 4 Volcanic, Tectonic and Complicated Landforms by Takasuke SUZUKI

Ichio MORIYA*

標題は地形図読図に関する入門解説書(古今書院, 5,400円+税)であるが, 内容は著者が半世紀近い地形学研究の集大成ともいえる全4巻1,322頁に及ぶ大作である。第4巻388頁のうち, 前半の第18章130(943-1072)頁が火山の地形に割かれている。これはちょっとした火山の専門書の分量に匹敵する。

著者は「日本地形学連合」の設立, その機関誌「地形」の発刊など, 地形学発展の中心的役割を果たしてきたが, もともと「火山」誌に火山体の変位, 火山体の年代と浸食度の関係などに関する数編の注目すべき論文を寄稿している有数の火山研究者である。したがって著者により地形図による火山体の判読の解説書が書かれたことは, 火山研究者にとって大きな福音といえる。空中写真による火山体判読の解説書はすでに存在するが, 地形図から火山体を判読する方法を解説した本は国内外ともに存在しない。海外の火山の調査研究を行うに際して, 国家機密保持のため, 空中写真の入手が困難で, 地形図のみから火山体の判読を強いられることの多い評者は, 日頃地形図判読の解説書の必要性を痛感していたが, 多くの火山研究者もこの本の恩恵に浴するに違いない。

しかもこの本は地形図による火山体の判読の解説書を超えていて, 火山体に関する論文業績を網羅し, 用語や分類方法にまで踏み込み, 豊富なデータをもとに議論を展開しており, 著者のこれまでの火山地形研究の集大成ともいえるとともに, 国内外ともに数少ない火山地形の専門書としても貴重なものと評価される。

「第18章火山地形」の構成は, 【第1節】火山の噴火と噴出物, 【第2節】火山地形とその内部構造, 【第3節】火山体の削剥と変動変位, 【第4節】火山の利用, 災害および建設工事に4分される。

第1節は火山の噴火と噴出物の用語解説と分類でよく整理され, まとめられており, 図や表は便利である。第2節は火山体を単成・複成, 単式・複式の組み合わせで4区分しているが, かえって煩雑で覚えにくい分類になったきらいがある。単式・複式火山体を高橋正樹氏の一連の論文とあわせ, 成因的に考察し直せば, 有効な火山体分類がなされるかもしれない。第3節は著者が「火山」誌に投稿した火山体の変動変形と, 火山体の浸食と年代との関連性を取り上げている。浸食は過去の気候変化に影響され, 多くの地域で10万年単位の氷期・間氷期を繰り返し経験し, それにともなって浸食営力・浸食速度が大きく変化したと考えられている。したがって浸食量と年代の間に単純な関係が存在しえないと予想されるので, この取り扱いには難しい。第4節の火山災害および建設工事に関しては, 長年著者が関わってきた土木技術者との連携に基づく視点が含まれ, 火山研究者全体がこの方面でも, よりよい理解と関心を寄せるべきことを示唆している。

「第20章紛らわしい地形の比較」の中にも立山・苗場山・阿武単成火山群・白河二俣山・八幡平・白馬大池・伊豆大島・狩場山などの火山地形が紹介されていて, 火山地形が変化に富み, 判読が難しい事例が多いことを物語っている。

* 〒924-8511 松任市笠間町 1200
金城大学社会福祉学部
Fac. Social Ware, Kinjo University, 1200 Kasama-machi, Matto 924-8511, Japan.
e-mail: imoriya@kinjo.ac.jp